

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の下、「もう一つの我が家」を事業所理念に掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「笑顔あふれる、もう一つの我が家」を心掛けている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人理念・事業所理念をお伝えし、職員と家族がともに入居者様の生活を支えられるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの農作業に来られる地元の方や、散歩中の方、近隣の方がお孫さんを連れて立ち寄られる時もあり、近所付き合いがたが出来ている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のふれあい祭りや福祉祭り・敬老会、近所のスーパーやホームセンターへの買い物、理容室や近隣の中学校へ運動会の見学に行くなど地域の人々と交流している。	○ 自治会に入り、より交流を深めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の相談窓口になっていきたい。	○	近隣に認知症の方では・・と思われる方に出会う度、少し後ろを見守ることがある。声を掛ける事も。市との連携で勉強会の提案(見守りを含め)したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	出来ていること出来ていないことの見極めが出来る良い機会 でサービスの見直しに活かしたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	門扉の開閉について、入居者の尊厳と家族様の思いとの相違が話し合いの問題となった。インフルエンザ対策の指導などを受ける良い機会だった。	○	地域の方との交流を持つパイプ役として、市をはじめ民生委員・高齢者クラブの方に入居者の方が地域に出て行ける環境づくりを協働で行いたい。また、避難訓練などを地域の方を交え取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括の取組みの会合に出席し地域医療との連携や権利擁護についての勉強会に参加、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、ホームのよき相談窓口として対応して頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	何人かの方が利用され、職員にも情報を流し、対応の注意を促している。又相続等で利用される方もおられ、身体の状態を家族様に詳しく伝えるなど行なっている。	○	入居時に制度が必要な方もあり、入居前に制度の説明を行なうこともある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、職員自身が気付かない虐待があることを確認した。また入居者の声に耳を傾け虐待の早期発見に努めたい。	○	虐待防止＝不適切なケアの予兆を見逃さない取り組みを行ないたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を事前に説明し、デメリットの部分を十分ご理解頂く様に努めている。	○	言葉の不備で誤解をされないよう十分対応に努めたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	嗜好調査や出掛けたい所をアンケート調査したり「何でもノート」などに記入して頂き実行した。特に、会議などで入居者様の「共有スペースを使わないで欲しい」との意見があり、以後対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の頻度が高く、その都度口頭で報告。運営推進会議の議事録などは隔月で書面にて報告している。金銭管理は四半期に1回書面にて報告している。	○	定期的な広報誌に取り組みたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からアンケートを運営推進会議などで公表し、家族様には随時対応に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなど業務の改善事項を法人の運営管理会議で提案し改善に努めている。	○	職員一人一人の能力を高める為改善策の提案を出来る様にしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	サービス担当者会議や入居者の外出時の付き添いなど、勤務変更は多々ある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として動きがある為、入居者には迷惑を掛けることがある。異動で入居者の不安を少しでも軽減できるように、予定外の食事会や外出を行なうなど工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の月1回の会議には、可能な限り出席し、研修報告等を聞く機会を設けている。管理者は職員の到達状況を見ながら、また困難事例の相談にその都度応じ指導に当たっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話でのやり取りに限られている時もあるが、管理者のつながりで、近隣の他ホームの職員と会って状況の交換を行なっている。	○ 地域の勉強会に協力し合える体制を作りたい。色んな所を見てみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のための飲み会の他、入居者と一緒に焼肉やお好み焼きパーティーで食事を楽しむなど努めている。	○ 交代勤務を調整しながら、飲み会などを行なって行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修への参加(個人参加)を呼びかけたり、業務の到達にあわせ、自己研鑽を促している。職員の趣味などの能力を活かし入居者のケアにつなげ、働き甲斐のある職場にして行きたい。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時は家族様の困りごとが主であることが多く、家族様からの情報を主に、また入居判定前には本人様の住居に伺って面接を行ない、本人様からの聞き取りも含め情報収集に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限り、困りごとについての聞き取りを行い、入居までの対応策などの提案に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み前の段階で本人様の状態の詳細を十分お聞きし、他の施設が妥当な場合は助言に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様が強みとされる趣味などの話やその方のキーワードを元になじみながらサービスが提供出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として教えて頂くことがたくさんあり、勇気付けられることもある。入居者・職員が共に支え合う新しい関係を築いて行きたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様にとって、やはり家族様が一番である事を大切に、入居者と家族の関係を良好に支える働きかけを行なっている。 ケアプランの中に家族様の協力を得られる項目を設け家族様の存在が認知症状の安定や改善に効果をあげている喜びを感じていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「ホームに居ることで家族が安心しているのなら」と子供さんを気遣われる親の顔を覗かせられ、そのままを家族様に伝え、家族の入居者に対する見方に変化が起きている。精神的に追いつめられた家族には「無理をさせないように」と口ぞえをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や親戚の方、昔の仕事仲間など家族様以外の面会や、行きつけのスーパーや菩提寺へのお参りなどの付き添いに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	大変良好な関係が出来ている。合う合わないの人間関係のコーディネートが出来ている。 関わりは有るがトラブルになることもあるがそれが家族でも捉えている。一人一人の考え方、思い方受け取り方が違う為生活の変化を見逃さないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養へ移られた方への訪問を行ない、家族様からお礼に畑でとれた野菜が届いている。 外でお会いした時お声掛けをしている。また退去した後も入院療養中のお見舞いなどに伺った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理能力が低下し、金銭や鍵の保管場所も定かでない方でも本人の意思を尊重しお任せしている。また、裁縫道具の危険が伴うものも危険が伴うがお任せしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の導入でより細かな情報が家族様から頂け、サービスの反映に努めている。	○	「その人らしさ」を大切にするサービスに繋げて行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の一日の過ごし方を元にその方の出来ることを継続出来る様に支援に努めて行きたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを元に、問題点を主治医・家族・担当職員・管理者・計画作成担当者で検討し介護計画を立てている。	○	情報、意見を出し合う事でよい方向の介護を目指したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の悪化で介護目標の到達が困難な時や退院後の計画の見直しなど変化に応じサービス担当者会議を開き、計画の見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の見直しを行なって行きたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体機能の低下などでホームでの生活が不可能になった時、法人の特養への斡旋など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊行動など今後起こりうる問題に対し、ボランティア・警察・近隣の中学・自治会との協力体制を強化して行きたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域医療との連絡会や権利擁護の研修などに参加している。	○	認知症ケアを市民参加の研修に結びつけられるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科などこれまでのかかりつけ医による治療を支援している。	○	訪問診療を取り入れて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の勉強を継続中。認知症の原因疾患特定でDrとの関係を築きつつある。家族様との連携で専門医の受診も進行中。	○	専門的な知識をもとに認知症ケアを行なって行きたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療の看護師とは電話連絡で対応して頂いている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	毎日の様に訪問し、早期退院に努めている。受け入れの情報(対応について)を支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受け入れられる体制に至っていない。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	受け入れられる体制に至っていない。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅の再現を家族様に依頼している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた対応に努めている。居室は施錠できるようになっているため鍵を掛けられる方もおられる。記録や電話連絡など家族様に要望もありその方に添った対応を心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活全般において、外出などホームの行事であっても自己決定で対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の活動を入居者と共に計画から参加して頂き、「したいことをする」支援を行なって行きたい。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の理美容室へ出向いてカットやパーマ・毛染めを楽しまれている。利用中は店主の厚意で世間話やお茶を頂かれるなど、外の空気を楽しまれている。女性の方の中には朝食までにお化粧をされる方も。	○ ご自分で出来ない方には、口紅をさすなど喜んでいただけるよう努めたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備をしたり盛り付けをするなど出来ることはして頂く支援を行なっている。	○ 各人の能力にあわせ生かせるよう努力している。特に食欲が減退する方には食事作りで出来ることを見つけ、活動的に過して頂き食欲が改善されるように検討していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査をもとにティータイムはコーヒー・紅茶・日本茶など希望のものを飲んでいただくように心掛けている。夕食後に晩酌をたのしまれる方も。出来る限り好きな食事をとっていただくように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見て、その方に合った声掛けをしている。服薬による排便コントロールをされている方には、排便確認をし失敗を未然に防げるように排泄記録をもとに対応している。	○	パット交換時、できるだけ恥ずかしさを感じさせないようにしている。 ・失敗があっても精神的な心の負担にならない様に見守っていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間など、本人様に合わせて対応するよう努めている。入浴に抵抗がある方には入りたくなるキーワードがあり、家族様からの情報をもとに対応している。	○	自然に入浴したくなるよう声掛け、洗髪(専門的)などの研究をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて自由にしていただいている。また昼夜逆転の方には日中を活動的に過ごして頂ける様に、菜園作りなど外気に当たっていただくように工夫している。	○	就寝前の精神状態を安定させ、楽しい時間になるよう努力している。夜間眠れないときは一緒にお茶を飲むひと時を持っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式をもとに、その方の自信回復に繋がる活動を心掛けている。またこれまでしたことがないと言われる茶碗洗いを男性の方にしていただくことで新しい発見を楽しんでいただいている。畑仕事の指導を受けたりおしえていただく事が沢山ある。	○	手芸、工作など指導し楽しみ行なえることを考え、工夫して作品作りをしています。自分で出来ること(ハーモニカ等)入所されるまでの生活を支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物取られ妄想がある方でも本人様の強い要望で自己管理していただいている。比較的自立されている方には最近のセルフ・レジを体験していただくなどの支援を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつやお仏壇に供える花・好物のマグロやお酒を買いに、また手芸用品や化粧品を買いに出かける支援を行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	東山浄園へのお参りや永代供養へ、施設に入られている奥様との面会などに付添いを行なっている。	○	春には木津川の堤防でお弁当をみんなで作りお花見に、秋の紅葉狩りにクリスマスのイルミネーション見学、大型スーパーへの買物・昼食会など。今後は一人ひとりの馴染みの場所へ出かけて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける方法がわからない方、難聴で受け答えが出来ない方(筆談)、郵便物の投函などお手伝いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族様の面会以外にも昔馴染みの方の多数の面会あり。家族様には面会者の報告をしている。ホームでの生活がより楽しいものであるように自由な面会の声掛けに努めている。	○	訪問される方に入居者の長所を一言付け加える事になっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加。「起きる・食べる・排泄する・清潔にする・活動する」拘束を予防できる支援を行なっている。	○	虐待も含め今後もホーム独自の勉強会を行って行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	毎日の散歩時には門扉を開放し、自由に出入り出来るように努めている。	○	徘徊に因る事故を経験されて来た家族様にとっては抵抗が大きく門扉をオープンしきれない問題が残る。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご夫婦の居室もあり、昼夜を通して所在や安否確認の声掛けには配慮を要している。夜間においては居室に入室し呼吸や顔色などの様子把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具・工具用カッターナイフなど危険な物を管理される方には、保管状態を週1回のシーツ交換時など定期的に確認して行きたい。	○	認知症の進行でリスクの見極めが難しい。特に居室での裁縫による縫い針の管理は危険が伴っており、基本入居者の意思を尊重し家族様にはリスクの説明を行って行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別リスク管理表を職員に配布し、事故防止に努めている。また基本所在と安否確認は昼夜を通して行っている。	○	入居者一人一人への対応のポイントを掴み、事故防止に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は研修として行っているが、定期的な訓練を今後行って行きたい。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一回の火災訓練。備蓄については取り組み中。	○	地域住民や推進会議を通して避難訓練など取り組んで行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者のリスクを把握し家族様へのリスク説明を行い理解していただく。特に門扉の件で入居者のADLにも様々な違いがあり統一した対応が難しい。	○	今後も御家族様との少しの時間でも一人ひとり、今後起こり得るリスクについて話す機会を持つ事。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定、体調の変化など早期発見に努め、状況の報告をし早期対応。 日々の様子が一人ひとり違う為会話等からも異変に努める。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血糖コントロールを要する方には食後の処方薬を調整。ペースメーカー対象の方で処方薬にて対応しておりどちらも担当医との連絡が必須で、その都度申し送りで連絡。排便コントロールは排泄記録をもとに各職員が確認しながら調整。薬に対する危機管理と知識を深める機会を持って行きたい。	○	今後も薬に対する知識を深めるため、主治医からの情報など、職員の知識として伝えて行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操や散歩で身体を活動的に動かす工夫と食物繊維の多くカロリーが低いきのこ類を多く使用するように心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・うがいなどその方に応じたケアを行っている。	○	うがい、歯磨きを促し、介助する。誤嚥や肺炎の予防として今後専門家による口腔ケアを検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量を記録。個人に合わせた好みを考える。基礎となる献立で糖尿病が一時悪化した方が快方に向かい自信になった。食事摂取量の低下が脱水を引き起こすこともあり水分補給のみでないことを職員に周知徹底したい。	○	水分摂取をトイレが近くなるからと拒否される事もあるがそうでは無い事を説明していく。食事を残されては意味がないので食べやすい状態に調理したり同じ食材でもカロリーを抑えることで全量摂取出来る工夫をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いアルコール消毒・排泄後の手洗い。アルコールによるドアノブの消毒。感染に対し40～60%の湿度管理など。職員・その家族が感染した場合など対応策をマニュアル化した。		自分自身も手洗いやうがいを必ずしています。トイレ介助から移動、利用者様は勿論、職員も消毒。感染症の勉強会で、目に見えないものに対する危機管理意識を促していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	適温での食材管理。生物の食材は厨房で取り扱わない工夫。水回りの掃除、ハイター消毒・天日干しの徹底。まな板の使い分け。賞味期限の徹底。月2回の厨房の整理整頓。調理後2時間以内の喫食を原則に、以後は冷蔵庫にて保管、再加熱により食事提供とする。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームをフェンスとオートロックの門扉で閉ざしているが、散歩時や門扉外の掃除や除草作業などにはオープンにしており、近所の方がお孫さんと来られたり、門扉外の通学路の草取りには近所の方が「すまないですね」と声を掛けて下さっている。	○	徘徊に因る事故を経験されて来た家族様にとっては抵抗が大きく門扉をオープンしきれない問題が残る。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内の照明、特に廊下は雨の日など昼間でも明るさを持つことで黄昏時の帰宅願望を軽減できる様に注意している。各居室の窓から望む様子は大変眺めが良く外に出てみたくなる気分からされる。ホーム外周にある菜園・柿や蜜柑・お茶の木に桜・梅などの花木が四季を楽しませる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで掃除機の音を聞きながら居眠りされる方。夕食後に晩酌を嗜む方にお茶で相手をされる方。夜中に眠れなくてリビングに出てこられ、話し声につられて4・5人の方がリビングに・・昔話に花が咲く毎日である。	○	気の合う方同士で分かれて話されている様子。天気の良い日は自由に日向ぼっこをしたりホームの回りの散歩をされている。リビングや廊下にもう少し生活感のあるものを演出していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた家と同じ配置(家具・写真等)を居室で再現。家具を新調されるのではなく、慣れ親しんだ物を持ち込んでいただく提案をしている。仏壇や鏡台を持ち込まれる方もある。	○	同じ間取りですが、カーテンや家具、その人の個性が出ています。毎日生活する中で居心地良く過ごせますように今後も努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペースでの調整は夏は28℃、冬は20～22℃を目安に、また湿度管理は感染症対策も含め40～60%を目標に常時注意を払うように心掛けている。各居室は毎朝の換気と居室の環境にあわせて(入居者の安否確認も兼ね)職員が行っている。夜間は各居室に濡らしたバスタオルを干し乾燥防止に努めている。	○	基礎疾患を持たれる方は感染症予防も兼ね居室への加湿器の設置を勧めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室・トイレ・浴室にはナースコールがあり出来るだけ自立した生活をして頂けるようにしている。転倒による衝撃を最小限に食い止めるため床はすべてクッションフロアとしている。キッチンアイランド式で自由に出入り出来るようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の要望をもとに裁縫・リリアンでのマフラー作り、おやつ作りなど持てる力を引き出す努力を行っている。弱視の方には常に居場所とその場面の説明を心掛けている。	○	一日の日課を掲示し、一日の流れを入居者が主体性をもって過せるようにしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の草花の植え替えや菜園での野菜作りでは収穫の喜びや草取りなど畑の管理を入居者の指導で職員がお手伝いしている。1階リビングからポーチのスペースを活かし焼肉パーティーをまた芝生スペースではティータイム・西瓜割り・ゴルフなどを行っている。	○	植木の刈り込みや野菜作り・草花の植え替えのなど一年の計画を入居者と一緒に考えて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)